

# 先端技術の活用により利便性の高い公共交通網を目指す

【岡谷市中心部】



▲ 市内を走るシルキーバス

## 【現状】

岡谷市は、かつて「シルク岡谷」と呼ばれ、明治時代より一大生産地として栄えた製糸産業の社屋や工場等の近代化産業遺産、昭和初期に生産日本一だった味噌蔵等の魅力的な建物がまちなかに点々と残っています。

諏訪市と同様に、諏訪湖サイクリングロード、(仮称)諏訪湖スマートインターチェンジの供用開始を4年後に控え、関係人口の増加に期待が寄せられています。

一方で、大型店の相次ぐ撤退、人口減少や高齢化（人口減少率6%、高齢化率34%（総務省H30国勢調査）の進展により、中心市街地の賑わいの停滞、空き店舗・空き家の利活用が課題となっています。

また、市内を走るコミュニティバスの利用者数も年々減少傾向にあり、市の運行事業補助金の増加が大きな負担となっています。今後、更なる高齢化の進行、運転免許証自主返納等に伴い、公共バスの利用機会の増加が見込まれる中、利便性の向上に向けて、如何に利用者のニーズに合ったルート設定及びダイヤ編成が組めるかが課題となっています。

## 【UDC信州の支援】

岡谷市は、大型ショッピングセンターの再整備に伴い、徐々に商圏人口が拡大しつつありますが、まち全体の再活性化、効率的な路線バス運行、魅力的な自然空間の積極的な利活用など、複数の分野に跨る課題を多く抱えています。

このうち、効率的な路線バス運行については、民間企業が保有する先端技術を用いた利用実体調査を提案し、社会実験や調査の実施に向けた様々な検討、調整を行っています。

また、UDC信州はこれらそれぞれの課題への対応と並行して、“まちづくり”に向けた市役所各課の横断的な繋ぎや、周辺市町との連携プロジェクト提案等にも取り組んでいきます。



▲ 民間企業を交えた社会実験の検討。大事なものはトライすること。



▲ 地域の方とまち歩き。まずは地域を知ることが第一歩。

- ① 岡谷市 ② 約48,000人 ③ 85km<sup>2</sup>
  - ④ 諏訪湖、岡谷蚕糸博物館、イルフ童画館、鳥居平やまびこ公園、横河川の桜アーチ、スカイラインミュージアム
  - ⑤ 岡谷太鼓祭り、とうろう流し・花火大会、鶴峯公園つつじ祭、小坂公園あじさい祭、出早公園もみじ祭
  - ⑥ うなぎ、地酒（神渡・高天）、味噌
- ① 市町村名 ② 人口(2020年4月1日現在) ③ 面積  
④ 主な観光地 ⑤ 主な祭り ⑥ ご当地グルメ



## voice

利用したい方々のニーズに合った公共バスの運行が十分にできているのか。市だけでは解決の難しい課題に対し、UDC信州様から最新テクノロジーを活用した乗降調査の可能性を提案いただき、2019年12月から、その実施に向けた検討を行っています。全国的にも例の少ない新しい取組への挑戦となりますが、豊富な知見とネットワークを有するUDC信州の「伴走型」支援を受けながら、一つひとつハードルを乗り越え、実現を目指して参ります。



岡谷市 産業振興部  
藤岡 明彦 さん